

# 学習者間のインタラクションに見られる 日本語学習のプロセス

## —地域の日本語教室の休み時間の観察から—

宿谷 和子

### 要 旨

本研究では、地域の日本語教室の入門クラスの学習者同士の休み時間のインタラクションを3か月にわたって縦断的に観察し、学習者同士のインタラクションからどのように日本語の学習が起こるかを観察した。第一に、学習者同士が親しくなるプロセスに注目し、複数の学習者が参加する活発なインタラクションのきっかけは何か、第二に、教師も含む複数の参加者によるインタラクションから学習者がどのように日本語を学んでいくかという点から考察した。その結果、活発なインタラクションが生まれるきっかけとして、お菓子や写真などのモノが関与すること、また、複数の学習者が参加することにより、レベルの低い学習者の「飛び入り参加」という現象も起こり、様々な視点からの「専有」が生まれることがあきらかになった。

【キーワード】地域の日本語教室、学習者間のインタラクション、モノの関与、飛び入り参加、専有

### 1. 研究の動機と目的

地域の日本語教室はマンツーマン、グループ、クラスと様々な形態がある。クラス形態の教室は学習者にとってコミュニティとしての重要な役割を担っているが、反面学習者の持つ背景の多様さ、レベル差がしばしば問題となる。

本研究に先立って行われた初中級レベルのクラスでの予備研究では、ある積極的な学習者を中心として休み時間に学習者間で活発な日本語によるインタラクションが見られた。そのことから、学習者間のインタラクション自体が日本語の学習となっているのではないかと気づいた。

本研究では、初めて日本語を学習する入門レベルのクラスを対象とし、学習者間のインタラクションが生起するプロセスを観察した。そして特に複数の学習者が参加するインタラクションから、どのように学習が起こっているか、状況論的アプローチから分析を試みた。

### 2. 先行研究と本研究の位置づけ

#### 2.1 先行研究

##### 2.1.1 先行研究1—地域の日本語教室

地域の日本語教室に関する先行研究としては、

(1)文化庁による地域日本語教育支援事業報告、(2)地域の日本語教室を理論面から分析した研究、(3)様々な実践報告などがあげられる。

(1)は文化庁が1994年から行っている地域日本語教育支援事業の報告で、全国8地域からの事例や提言などの報告がある。(2)としては、リテラシー理論と言語管理理論から地域の学習支援を分析した石井(1998)や田中(1996)の「日本語を教えない日本語教育」の提言などが挙げられる。(3)では家根橋・二宮(1997)の学習者のレベル差に着目した教室活動、足立・松岡(2003)の日本語母語話者と非母語話者のティームティーチングの試みなどがある。

##### 2.1.2 先行研究2—インタラクション分析

インタラクションの分析研究はいろいろあるが、山本(2002)は3者間のインタラクション、野々口(2002)は日本語ボランティアと学習者とのインタラクションを分析している。文野(2004)の研究は学習者のサイド発話に着目したものである。

### 2.2 本研究の位置づけ

#### 2.2.1 社会文化的アプローチ

本研究では、社会文化的アプローチの見地から学習者間のインタラクションを分析する。

ヴィゴツキーは言語を社会的行為として位置づ

け、協働行為におけるより有能な他者の存在が理解や学習を助けるとしている。さらにヴィゴツキーと同世代のバフチンは、言語は相手があって成りたつものという考えから発話に焦点を当て、発話を声（ヴォイス）と定義づけている。ヴォイスは様々な背景、視点からの発話を意味するが、意味の理解や了解は発話のぶつかり合いから生まれるとしている。

ヴィゴツキーやバフチンの理論をさらに発展させたロゴフやワーチの考え方として「専有」がある。個人の学習過程とは、視点のずれや諒解等を経て媒介手段（言語など）を自分のものにしていくこととしており、ワーチらはそれを専有としている。

### 2.2.2 マイクロエスノグラフィー

本研究は、マイクロエスノグラフィーによる質的研究であり、調査者自身が教師として現場に参加しながら、参与観察を行ったものである。

## 3. 調査の概要

### 3.1 調査の対象

調査の対象は都内にある地域の日本語教室の入門クラスである。以下はその概要である。

教師一筆者及び、アシスタントティーチャー  
火曜・金曜の夜 6:30-8:30

使用教材：「日本でくらす人の日本語」1-13 課  
時期：2002年3月末から7月半ば

調査対象者：日本語学習者 15名（フィリピン5、インド3、中国2、タイ1、韓国1、アメリカ1、スウェーデン1、フランス1）

男性7人女性8人で、そのうち配偶者、家族が日本人であるものは7人、年齢は12歳から65歳までである。

### 3.2 調査の方法

調査の方法は、参与観察、録音、アンケート、インタビューである。録音は5月末から行った。

本研究の場合、調査者が教師として関わっているため、学習者同士のインタラクションへの関わりに影響を与える可能性もある。そのため、休み時間に置ける教師の参与の仕方を周知的関わりとし、次のようなことを心がけた。

(1)学習者のインタラクションが見られない時に教師は働きかけない。(2)学習者から働きかけがあったときには参加する。(3)教師の参与も含めたイン

タラクションを観察する。

### 3.3 データ収集と分析

本研究でのデータはインタラクションであるが、そのデータ・ユニットを次のように定めた。

(1)会話が何かの目的を持ってなされる。(2)会話の初めの参加者がインタラクションに関わり続ける。(3)インタラクションの中心となるトピックがある。

そのようにして集めたデータを特徴によってカテゴリ化した。カテゴリは次のようなものである。参加者、使用言語、イベント（お土産を配る、写真を撮る）、モノ（お菓子、写真）、トピック（ワールドカップ、台風など）その他（飛び入り参加、教師の介入、質問、対話の不成立など）

## 4. 結果と分析

### 4.1 インタラクションの変化

休み時間のインタラクションを、参加者（人数）、使用言語別に時間軸で表したものが以下の図である。

5月半ばごろまでは、日本語によるインタラクションはほとんど見られず、参加者は欧米人同士、フィリピン人同士と使用言語別にグループに分かれている。5月半ばから急速に日本語を交えたインタラクションが増え、6月からは、参加者の人数も3人以上のインタラクションが頻繁に起こっている。

### 4.2 活発なインタラクションーモノが果たす役割

5月14日にクラスのほとんどが参加したインタラクションがあった。これは、タイ人の学習者がお土産のお菓子を配ったことから起こった。このように菓子などのモノが関与する場合、参加者の多い活発なインタラクションが多い。お菓子以外に写真もインタラクションのきっかけになる。以下は、お菓子と写真が関与した場合のインタラクションと参加者人数である。

5/14 タイ人学習者がお土産を配る	6人
5/31 中国人学習者、ドライチェリーを配る	4人
5/31 フィリピン人学習者の見せた写真	5人
6/18 クラス全員の写真を撮る	7人
6/25 中国人学習者の孫の写真	3人
6/28 クラス全員の写真を見ながら	5人

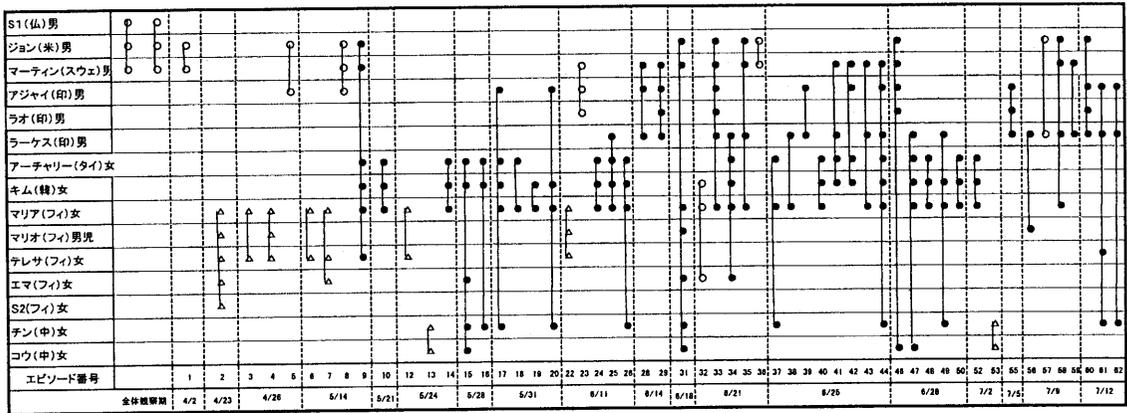


図4-1

横軸の点のパターンは、出席を表す。  
縦軸と○△●は相互交渉の参加と使用言語を表す。○:英語 △:学習者の母語 ●:日本語(部分使用も含む)  
注:教師との相互交渉エピソードは除いた

### 4.3 活発なインタラクションー日本語学習の話題

#### 4.3.1 複数の視点

学習者が話題として最も好んだのは日本語の学習に関することである。これは後半の時期のインタラクションのトピックとしてよく取り上げられ、またアンケートの結果でも日本語教室に来る目的の第一に「日本語の学習」が挙げられていることからよく分かる。

ここでは、「ごめんなさい」と「すみません」の違いを教師に質問することから広がるインタラクションを取り上げて分析する。(稿末資料)

まず、タイ人学習者アーチャリーが「ごめんなさい」と「すみません」の違いを質問し、教師はどちらも同じと答えるが、アーチャリーが「Excuse me」と言いかけたことから、フィリピン人学習者マリアは「すみません、あの、何番線、新宿の・・・」と参加してくる。

さらに、話題はアーチャリーの夫がスケートで人につぶかった時に「すみません、すみません」と言ったという話題から、男性と女性の使い分けに発展する。

中国人学習者チンは「ごめんなさい」と「ごめん」の違いについて質問する。

このように、あるインタラクションを学習者がいろいろな視点で見ており、それぞれの体験と結びつけて理解しようとしていることが分かる。

#### 4.3.2 飛び入り参加

このインタラクションはアーチャリーの質問から始まり、前半では彼女と教師とのやり取りが中心であるが、途中からチン、マリアが参加してくる。

マリアは通常の授業においては文法項目などについての理解が遅くレベルの低い学習者と見られている。またチンも65歳という高齢で聞き取りも苦手で普段はインタラクションになかなか参加できない。

このような学習者がインタラクションの中にある接点を見つけ参加してくるような参加の形をここでは「飛び入り参加」と名づけた。二人の飛び入り参加には共通の形が見られる。それは、飛び入り参加の前のつぶやき、独り言である。(資料下線部)

### 5. 考察ー飛び入り参加を中心に

#### 5.1 複数の学習者によるインタラクションの条件

複数の学習者が参加するインタラクションでは、飛び入り参加が起こりやすい。そのようなインタラクションが起こる条件として次のことが挙げられる。まず、学習者同士親しくなるためのある程度の時間、インタラクションが発生するきっかけとしてモノの関与、休み時間という自由な空間、そして共通の話題などといったことである。

#### 5.2 飛び入り参加の意義

レベルの低い学習者が、インタラクションに参加する飛び入り参加を、飛び入り参加をする学習者自身と他の学習者の2つの視点から検証する。

飛び入り参加をする学習者によく見られるつぶやきや独り言は、参加しようとする助走のようなもので心の準備と言える。複数の参加者がいるインタラクションの場合、このような心の準備をしながら周道的に参加することが可能である。また、レベルの低い学習者にとってインタラクションの参加は仲間に加わることでできた満足感につながるといえるで

あろう。

また他の学習者にとっても、飛び入り参加は異なる視点からの学習となり、さらにインタラクションが発展するきっかけともなる。

### 5.3 飛び入り参加と教師の介入

レベルの低い学習者がインタラクションに参加してくる場合、それが必ずしも理解されたり、受け入れられたりするわけではない。しばしば他の学習者に理解されずに拒否されたケースが何回か見られたが、「ごめんなさい」と「すみません」のインタラクションでは2人の教師が参加しており、そのサポートが有効に働いたと考えられる。

## 6. 今後の課題

今回の研究では、学習者間のインタラクションを観察し考察したに過ぎない。日本語教育の立場からこの結果を教室デザインとしてどのように生かすかを今後の課題としたい。

また、同時に学習者間のインタラクションのサポートとしての教師の役割も模索していきたい。

## 参考文献

- 足立祐子・松岡洋子(2003)「状況中心の活動ができる教授者養成」『2003年度日本語教育学会予稿集』pp143-148
- 石井一成(1998)「地域の日本語支援の場におけるリテラシー行動の類型化の試みーリテラシー理論と言語管理理論からー」『日本語教育』98
- 家根橋伸子・二宮喜代子(1997)「レベル差の大きいボランティアクラスにおける相互学習の試み」『日本語教育』95
- 高木光太郎(1996)「実践の認知的所産」『認知心理学 5』東京大学出版会 pp37-58
- 田中望(1996)「地域における日本語教育」『日本語教育・異文化間コミュニケーションー教室・ホームステイ・地域を結ぶものー』凡人社 pp23-40
- 野々口ちとせ「日本語ボランティアと学習者の会話分析」『2002年度日本語教育学会予稿集』pp107-112
- 野山広(2002)「地域社会におけるさまざまな日本語支援活動の展開ー日本語習得支援だけでなく共に育む場の創造を目指してー」『日本語学』21/6 明治書院 pp6-22
- 文野峯子(2004)「授業参加過程の質的研究ー『サイド発話』への注目ー」『日本語教育』121 pp103-108
- 箕浦康子(1999)『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房
- 山本容子(2002)「三者間接触場面における意味交渉の調整プロセス」2002年度日本語教育学会予稿集 pp94-100
- ジェームス・V.ワーチ『心の声』福村出版 pp74-12

(しゅくや かずこ/星美学園短期大学非常勤講師)

k-shukuya@vega.ocn.ne.jp

## 稿末資料

1. アーチャリー 山本さん, between Sumimasen, Sumimasen and Gomennasai(うん)which is better?(あ)for exemple in taxi . . .
2. 山本 外で?例えば電車とか。「すみません」。
3. アーチャリー 「ごめんなさい」は?
4. 山本 もOKですけどー/少し間/「すみません」のほうが, polite . . .
5. アーチャリー ほうー (皆「ふーん」)
6. チン 「すみません」 < 「ごめんなさい」 >
7. アーチャリー < I used to go to . . . >
8. 山本 でもどっちでもOKですけど . . .
9. マリア でもね, わたし I want to ask you### ごめんなさい . . .
10. アーチャリー Gomennasai and Sumimasen, different you . . .
11. チン ごめん . . .
12. 山本 「すみません」は便利 . . .
13. アーチャリー Because of ### word, excuse me . . .
14. マリア Excuse me . . . (小声で) excuse me . . .
15. 山本 (近くに来た筆者に)「すみません」と「ごめんなさい」(うん) 例えばちょっと人とぶつかっちゃった(うん) 時とか, どちらが . . .
16. 筆者 両方 < 大丈夫よ > { < }
17. 山本 < 両方大丈夫ですか > { > } 「すみません」のほうが . . .
18. 筆者 よく使うかな。うーん < でも . . . >
19. マリア < I want to ask you### which is## > すいません, 何番線, あの新宿の
20. 筆者 (早口で) そうそうそうそう, その時は「すみません」。(皆「あー」)
21. アーチャリー Before question, before question, < 「すみません」 ? >